

2026年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
33104	子どもの発達と社会 Society and Developmental Stage of Children	浜 えりか			1	選択	1.2後期

科目の概要

本科目においては、子どもの発達について、発達心理学の視点から学ぶことを目的とする。本目的はディプロマポリシー②・③・④・⑥に相当する。これらを身に付けるために、次項目について学ぶ。子どもの発達の視点から学び、働きかけ方や語りかけ方について理解を深める。また、子どもを取り巻く環境の変化について学び、子どもを支援していく社会のあり方について考える。本授業では、学生たちが社会的に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等に関する一般的な知識・技能を身に付ける(②)。さらに、獲得した専門的知識・技術を活用し、自分の課題を解決する力を身に付ける(③④⑥)。

学修内容	到達目標
① 子どもとは何かについて考え、理解する(②)。 ② 子どもの生涯にわたる発達について学び、発達段階における課題への対応方法について知る(③)。 ③ 子どもの発達を支援する制度や取り巻く環境を理解し、環境の課題について考察する(④・⑥)。	① 子どもとは何かについて考え、理解することができる(②)。 ② 子どもの生涯にわたる発達について学び、発達段階における課題への対応方法について知ることができる(③)。 ③ 子どもの発達を支援する制度や取り巻く環境を理解し、環境の課題について考察することができる。(④・⑥)

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	・子どもを取り巻く環境について、日常的に観察したり考えたりして努力をすることができる。
	働きかけ力	
	実行力	・課題レポートに主体的かつ積極的に取り組み、やり遂げることができる。
考え抜く力	課題発見力	・子どもの発達を支えるために必要な保育・教育について課題を見出していく姿勢を持つことができる。
	計画力	
	創造力	・様々なニーズを持つ子どもを支援する社会の役割、さらに自分は何ができるか考えることができる。
チームで働く力	発信力	・グループワークでは、自分の意見を整理しながら述べるることができる。
	傾聴力	・授業中は他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	・遅刻、無断欠席などをせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト、参考文献：なし
適宜、授業資料の共有、プリントを配布する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：なし
資格との関連：ピアヘルパー

学修上の助言	受講生とのルール
・日常生活の中で、子どもの様子を観察し子どもに関する情報に関心を持つこと。 ・子どもたちを取り巻く状況を、常に関心を持って捉えていくこと。	・私語や勝手な言動をする学生は、授業を受ける権利はないとする。

【評価方法】

評価対象	評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント		
学修成果	学期末試験 筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	0	①			
			②			
			③			
	平常評価	小テスト	35	①	✓	中盤に発達心理の基礎理論を問う中テストを実施する。 ・胎児期乳幼児期から生涯にわたる発達の特徴の基礎を理解しているかを問う。
				②	✓	
				③	✓	
		レポート	45	①	✓	最終レポート（45点） ・教育を受ける権利、子どもの権利の視点から授業で取り上げた事例（不登校、子どもの貧困、発達障害、児童虐待）に対する適切な支援策をまとめられているかどうかで評価する。これは現代社会の課題解決を図るpisa型学力に相当する。
				②	✓	
③				✓		
成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）		10	①	✓	・後半には演習として、グループで事例検討を数回行う。これまでの発達に関する学習を踏まえて、事例に対する見立てや対応方を考えることができるかの実践力を評価する。	
			②	✓		
	③					
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓	（主体性）・子どもを取り巻く環境について、日常的に観察したり考えたりして努力することができる。 （実行力）・課題レポートに主体的かつ積極的に取り組みやり遂げることができる。 （課題発見力）・発達課題に対してどのような対応が求められるか、常に省察し課題を見出していく姿勢を持つ。 （創造力）・社会的課題に対する解決策を自分なりに考えることができる。 （発信力）・グループワークでは、自分の意見を整理しながら述べるすることができる。 （傾聴力）・授業中は他者の発言に集中し、自分と異なる意見を尊重することができる。 （規律性）・遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。	
			②	✓		
			③	✓		
総合評価割合		100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>①子どもとは何かについて深く考え、記述することができる。</p> <p>②子どもの発達について、発達心理学の視点から明確に説明し、発達段階に応じた課題と対応方を説明することができる。</p> <p>③子どもの発達を支援する環境や課題について深く考察し、記述することができる。</p> <p>上記の到達目標について、レベルS(秀)の基準は、総合計が90点以上。レベルA(優)の基準は、総合計が80点以上～90点未満とする。</p>	<p>①子どもとは何かについて自分なりに考え、記述することができる。</p> <p>②子どもの発達について、概要を説明することができ、発達段階に応じた課題と対応方を自分なりに説明することができる。</p> <p>③子どもの発達を支援する環境や課題について、自分なりに記述することができる。</p> <p>上記の到達目標について、レベルB(良)の基準は、総合計が70点以上80点未満とする。レベルC(可)の基準は総合計が60点以上～70点未満とする。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 本科目の目的と内容について理解する。 自分の幼少期を振り返り、心に残っていることを思い出し、子ども時代について考える。	講義・発表 リアクションペーパーの提出	本科目の目的と内容について理解することができる。	予習：シラバスを読んで本科目の目的と内容について確認する。 復習：リアクションペーパーを提出する。	30	主体性 実行力 傾聴力 規律性
2	生涯にわたる発達とは何だろう？	講義 グループワーク リアクションペーパーの提出	生涯にわたる発達の基礎理論を概ね理解し、説明することができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	60	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3	胎児期・新生児の発達	講義 グループワーク リアクションペーパーの提出	胎児期・新生児の発達の基礎理論を概ね理解し、説明することができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	60	主体性 実行力 傾聴力 規律性
4	幼児期の発達①	講義 制作（ことば遊び絵本の企画） 質疑応答によるフィードバック	幼児期の発達の基礎理論を概ね理解し、説明することができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	60	主体性 実行力 創造力 傾聴力 規律性
5	幼児期・児童期の発達	講義 動画視聴 制作（ことば遊び絵本の制作） 質疑応答によるフィードバック	幼児期・児童期の発達の基礎理論を概ね理解し、説明することができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	60	主体性 実行力 創造力 傾聴力 規律性
6	児童期の発達	講義 動画視聴 グループワーク 質疑応答によるフィードバック	児童期の発達の基礎理論を概ね理解し、説明することができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	60	主体性 実行力 傾聴力 規律性
7	思春期・青年期以降の発達	講義 グループワーク 質疑応答によるフィードバック	思春期・青年期以降の発達の基礎理論を概ね理解し、説明することができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	180	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性
8	これまでの発達に関する学びを振り返る	講義 グループワーク 質疑応答によるフィードバック	これまで学習した発達心理の基礎理論を概ね理解し、説明することができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。中テストに向けた学習を行う。	270	主体性 実行力 課題発見力 創造力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	中間テスト これまで学習した発達の基本理論	中間テスト 講義	5～6割程度答えることができる。	予習：自分自身の学校体験を振り返る。 復習：どのような子どもが教育から排除されやすいか整理する。	180	主体性 実行力 傾聴力
10	中テストのフィードバック これからの学習について：予習課題の提示	講義 リアクションペーパーの提出	これまで学んだ発達の基本理論の学びを振り返り、次時からの見通しをもつことができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	45	課題発見力 発信力 傾聴力 規律性
11	乳幼児期に関する事例検討①	講義 グループワーク リアクションペーパーの提出	事例に関するグループワークから自分の考えを述べることができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	45	課題発見力 傾聴力 規律性
12	児童期に関する事例検討②	講義 グループワーク リアクションペーパーの提出	事例に関するグループワークから自分の考えを述べることができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	45	主体性 発信力 傾聴力 規律性
13	思春期に関する事例検討③	講義 グループワーク リアクションペーパーの提出	事例に関するグループワークから自分の考えを述べることができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	45	主体性 実行力 創造力 規律性
14	青年期に関する事例検討④	講義 グループワーク リアクションペーパーの提出	事例に関するグループワークから自分の考えを述べることができる。	予習：前時に示した課題に取り組む 復習：学習を振り返り、リアクションペーパーを提出する。	45	主体性 発信力 傾聴力 規律性
15	これまでの学習を振り返り、レポートの書き方を学ぶ	講義 最終レポートの提出	レポートのテーマを選び、自分の考えを述べるができる。	予習：これまでの学習自分がレポートにまとめたいテーマを決める。 復習：最終レポートを作成し、提出する	45	主体性 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力